

2019/01/15【学習支援】第
32回 初年次教育セミナーを
開催しました

○ 「より良い学びを提供するために ～実例から学ぶ～」

日時：2018年12月19日（水）15:00～16:30

講師：川越 明日香氏（熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授）

学習支援センターでは、2018年度の初年次教育セミナーの統一テーマを「アクティブラーニングの再検討」とし、教職員を対象に2回のセミナーを開催しました。

第2回目の今回は、12月19日（水）熊本大学 大学教育統括管理運営機構 川越 明日香先生をお招きし、「より良い学びを提供するために ～実例から学ぶ～」と題して、お話しいただきました。

今回のセミナーでは、初めての試みとして、講師が実際に本学で行われている授業を参観するという形式を取りました。そして、授業設計という観点に立ち、アクティブラーニング型授業としての良い点やもっとこうしたら良くなるかもしれないという改善点を見出すこととしました。

前半は、午前中に本学の5つの授業を参観された川越先生より、授業風景の写真を使って、教室での先生の立ち位置や受講学生の様子などから、それぞれの授業について印象に残った点やよりよい授業提案がありました。そして、「よい授業とは、どんな授業か」について、「アクティブラーニングの定義」から「授業デザインにおける双子の過ち」、「活動の動詞からみる学習アプローチ」や「習得-活用-探求という学習プロセス」といった項目で詳しく解説されました。

後半は、「授業を作るコツ」や「グループワークのコツ」、良い学習を目指すための「授業改善の指針」について解説され理解を深めました。

セミナーの最後には、「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるか」を意識した指導への転換と、到達目標から逆算した授業の設計・実践・評価・改善といったPDCAサイクルで考えることで「より良い学び」+「授業改善」に繋がることを示唆していただきました。

本セミナーは、参加者それぞれが、より良い学びを提供するために何が必要で、自身の授業設計にどう活かしていくかを考える機会となりました。参加者からは、「普段見る機会のない、他の先生の授業の工夫などを知ることができて大変参考になった」や「個人と集団の関わり方や内化と外化のとらえ方など今後の授業でやっていきたい」等の声が寄せられました。（参加者：教員5名、職員10名）

